



吉島病院 広報紙

2014 秋号
Vol.55

患者さまと吉島病院を結ぶ情報紙

わかば

発行日:平成26年9月24日
発行所:吉島病院
発行人:広報委員会

今号の
もくじ

糖尿病の新しい治療薬P.1
入退院センターを開設しましたP.2
COPD 教育入院検査 その2 血液生化学検査P.2

気管支喘息に対するステロイド吸入薬についてP.3
インフルエンザワクチンについてP.3
クリスマスコンサートのお知らせP.3



糖尿病の新しい治療薬

糖尿病・内分泌内科 坂下 有



近年、日本人の糖尿病人口の増加は著しく、厚生労働省の平成19年国民健康・栄養調査によると「糖尿病が強く疑われる人」は約890万人、「糖尿病の可能性が否定できない人(境界型糖尿病に相当する)」は約1320万人を超えると推察されています。当然のことながら糖尿病合併症や動脈硬化による心血管疾患などの疾患も増加しています。一方、糖尿病の治療の選択肢は新しい糖尿病治療薬により更に広がってきました。インクレチン関連薬(GLP-1受容体作動薬、DPP-4阻害剤)が数年前に出され、多くの患者さんに使用されています。

この春(平成26年4月)にはSGLT2阻害剤が登場しました。SGLT2阻害剤は腎臓でブドウ糖の再吸収を抑制し、尿中へのブドウ糖の排泄を促進し血糖値を低下させる薬剤です。単独では低血糖を来す可能性が低く(低血糖は起こりにくいですが起こす可能性はあります。)、また体重減少作用も期待されます。しかし尿路感染症・性器感染症の発現、頻尿・多尿・脱水症状、めまい・ふらつき(血圧低下)などの副作用が起こる可能性があります。また腎障害がある方では薬の作用が弱まるなどの特徴があります。当院でもすでにSGLT2阻害剤を処方している患者さんはいらっしゃいますが、新薬なので薬剤が発売されて最初の1年間は2週間に一度は受診していただかなければなりません。

糖尿病の治療は年々進化し治療の選択肢が増えてきました。それぞれの患者さんにとって最適な治療を行い、糖尿病による合併症を減らせるように努めてまいりますので宜しくお願いいたします。

*SGLT2:腎臓で糖を再吸収する役割をもつたんぱく質です。

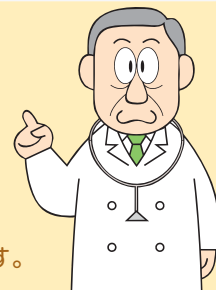


SGLT2阻害剤

患者さまの 権利と責任

1. 個人の尊厳は尊重され、最善で平等な医療を受ける権利を有します。
2. 治療に関する情報を知り、説明を受ける権利を有します。
3. 治療に関する方法を、自己の意思で決定する権利を有します。
4. 個人の情報(プライバシー)が、保護される権利を有します。
5. 医療関係者との信頼関係に基づき、医療への参加の責任を有します。

当院では、患者さまと医療者のパートナーシップを大切にしています。
患者さまと医療者がお互いに協調し、良好な関係を築いてゆきたいと考えています。





入退院センターを開設しました

センター担当看護師 柳川 康子

患者さまに安心して入院していただくために、7月に入退院センターを開設しました。なお入退院センターと称しておりますが、当面入院時のみの対応をさせていただきます。

目的は、

- 1) 入院予約時から、安心して治療に臨めて適切な医療が受けられる体制を整える。
- 2) 入院生活上の問題を判断して、適切な療養環境を提供する。
- 3) 外来と病棟間の連携を強化してチーム医療を行う。

担当の職員は、看護師1名、事務員1名で、場所は、1階の11番の窓口です。業務は、入院予約の患者さまや、当日に入院が決まった患者さま、ご家族に、面談による情報収集を行い、入院の手続きや入院生活の説明を行うことが主な内容となっています。

患者さまが入院される時は、当センターで受付を行い、入院病棟へご案内いたします。

また、入院に関して支援が必要な場合は、医療相談員や医事課との相談体制を取っておりますのでご相談ください。



COPD教育入院検査 その2 血液生化学検査

臨床検査科 矢野 直子

COPD 教育入院検査では、採血をさせていただきます。その血液で行う血液生化学検査のうち、肺がんマーカー・動脈血液ガス分析についてご紹介いたします。慢性閉塞性肺疾患(COPD)の主な症状として、持続的な咳と痰があります。同じ症状を伴う別の疾患として呼吸器感染症や、肺の腫瘍などもあります。血液生化学検査では、COPDが引き起こしている病態や、COPDと同じ症状を持つ別の疾患を見つけ出す為に行います。

●肺がんマーカーとは？

肺に腫瘍ができると、血液中には普段はほとんどみられないCEA(がん胎児性抗原)・シフラ(サイトケラチン19フラグメント)・Pro-GRP(ガストリン放出ペプチド前駆体)という肺がんマーカーの値が上昇します。血液検体から、「肺の腫瘍」の可能性や「腫瘍の種類」を調べます。

●動脈血液ガス分析とは？

肺では血液の中の酸素や二酸化炭素の交換が行われていますが、COPDや呼吸器感染症(肺炎・胸膜炎など)に罹ると、この交換が上手く行われず血液中の酸素や二酸化炭素のバランスが崩れてしまうことがあります。動脈血液ガス分析の検査では、動脈血液中の酸素・二酸化炭素・血中イオンを調べます。

一般的にCOPDは、喫煙を原因とする肺の生活習慣病のイメージが強いですが、最近では肺にとどまらず他の疾患(脳卒中・心筋梗塞など)と密接に関連していることがわかっています。その事から、全身の病態のチェックも重要となっています。



シリーズ 呼吸器の薬剤

気管支喘息に対する

ステロイド吸入薬について



薬剤科 科長代理 篠原 健

主に気管支喘息の治療に使われる吸入薬にステロイド吸入薬があります。

ステロイドと聞くと副作用を怖がる患者さまが多くいるのを感じますが、吸入薬の優れている点は、薬を口から直接吸い込み気管支や肺といった、効いてほしい場所に直接とどけるので、少量の使用量ですむ点です。

そのため非常に副作用もでにくく安心して使用しやすい薬です。ただし薬を吸った時に、口の中に残った薬をそのままにしておくと口の中が菌に感染する場合があります。これは、使用後にうがいをするすることでほぼ防げる副作用なので、吸入後は必ず「うがい」を行ってください。

吸入薬には粉薬を吸い込むパウダータイプと、スプレーのように霧状にした薬を吸い込むエアゾルのタイプがあります。薬それぞれで特徴などは違いますが、まずはきちんと吸入できることがとても大切です。

吸入前にしっかりと息を吐き、吸入後は吸った薬が出て行かないように5秒くらいを目安に息を止めるなど、いくつかポイントがあります。

どうしてもうまく吸入できない場合や、きちんと吸入できているか不安な場合は、主治医に相談したり、薬剤師に気軽に声をかけてください。



フルタイドディスクス

オルベスコインヘラー

インフルエンザワクチンについて

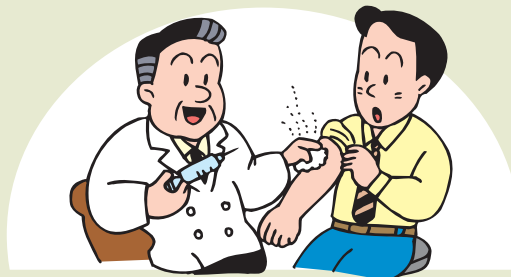
かぜの中でも強力なのがインフルエンザ。感染力が強く、高熱を発するのが特徴です。関節などの痛み、頭痛や倦怠感、せき、のどの痛みなど重い症状を引き起こします。インフルエンザを予防するには、予防接種が大変有効です。ワクチンの副作用はほとんどありません。流行する前に予防接種を受けておくことをお勧めします。

とくに慢性の呼吸器疾患（喘息、肺気腫など）や心臓病などを持っている方こそ重症化を防ぐ必要があると思います。現在のワクチンは、大人の場合1回でも十分であるとされています。通常、ワクチン接種後2週間で効き始め3ヶ月間程度効果があります。当院では予約の必要はありませんので、体調のいい時に主治医と相談の上お受けください。

【接種費用】

1回につき3,240円(税込) (原則1回)

※なお、当院に通院中の患者さまを対象にお受けいたします。



COPD教育入院 2週間コース開設のお知らせ

10月からCOPD教育入院に2週間コースを開設します。
現行の1週間コースの内容に加え、呼吸器リハビリを充実させております。
詳しくは外来受付にお尋ねください。

行事予定

クリスマスコンサート

12月9日(火) 18:30~19:30

《場所》外来ホール

二胡の演奏会を予定しています。